

# MORIOKA YMCA NEWS

## 盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

2017年4月号



発行人：濱塚有史 編集人：武田悠・向平悟 発行所：特定非営利活動法人 盛岡YMCA 岩手県盛岡市本町通3-1-1  
TEL 019 (623) 1575 e-mail: info@moriokaymca.org URL: <http://www.ymcajapan.org/morioka/>

## 「一步一步」

盛岡YMCAリーダー会 会長 小野寺 保乃香（盛岡大学3年・チーズリーダー）

出会いと別れの季節。春はいつもちょっと寂しい気持ちとこれからの生活に期待を持ってワクワクすることから始まる。

この春も、盛岡YMCAからスタッフやリーダーをはじめ多くの子どもたちを見送り、迎える。去る人は残すものに大きな影響を与えて残るものは次の人に必ず何かを与えてくれる。

私は、高校まで運動部に所属していた。そのときに必ず言われたことは、「もっと自分に自信を持って」ということだ。自信を持つとはどういうことなのだろうとその当時はよく分からなく、ただ淡々と試合をし勝てば喜び、負けては悔しがる。その繰り返しだった。

あるとき、盛岡YMCAに入り活動していくうちに、次第に自分の口から子どもたちに「もっと自信を持ってみて！」と言っていることに気づいた。これは自分なりの言葉の解釈だが私はこの言葉の意味は、「あきらめてほしくない」ということなのだろうと思った。少なくとも私がその子に向けて言った意味はこれに近い。可能性があるのに壁にあたるとすぐに壊すのをやめてしま

う、その姿はまるで自分を見ているようだった。

「どうせできない」その言葉がどれだけ浅はかなものだったのかいまは分かる。

リーダー会長を決めるとき、私は何も出来ないから、と弱気な考えでいることに気づいた。シンプルに、できるかできないかじゃなく、やるかやらないかで考えたとき私の中で「やる」という選択肢しかなかったのだ。それは誰もやらないならとかしやうがないからとかそういうことではなく、先輩たちや子どもたちの姿をみて、自分も何かのきっかけを与える存在でありたいと思ったからだ。だが、私はその勇気は持っていないいつも誰かの影に隠れ逃げていた。しかし今回、その第一歩を踏み出すきっかけくれたリーダー会長という存在。これからどうなるか自分自身わからないからこそワクワクする。そんな一歩を踏み出したことに感謝をしている。

「チーズらしいね」その言葉が飛び交うように自分を出していきたい。

# また会う日まで…

3月13日(月)、これまで盛岡YMCAを盛り上げてくれたリーダーたちの送別会が行われました。2016年度は6名のリーダーが卒業。卒業生からメッセージが届いています☆



盛岡YMCAで活動させて頂いた4年間はあっという間でした。子どもたちと新しい遊びを生み出してグラグラ笑いあったり、全力で遊ぶ時間が一番楽しかったです。「短足一！」と子どもたちからの第一声。足が長くなったと弁解するのではなく、アピールポイントにしてみました。新しい引き出しが増え、今までの自分ではない自分に出会えました。活動を通して、子どもたちから学んだこともあります。楽しいことはもっと楽しくなり、悔しいことは同じ立場でなんとかしようと思えます。目の前のことに全力な子どもたちと一緒に活動できたことは、私にとって貴重な時間でした。そして、様々な感情を共感しあえることの良さを実感しました。

盛岡YMCAでは、「君でいいんだよ」を伝えています。この一言が伝えるメッセージに考えさせられ、人との関わり方の難しさも知りました。上手くいったこともあれば失敗したことも教えられるほどです。しかし、その度に仲間との存在で立ち直ることができました。優しさ、支え合い、気遣い…捉え方次第で意味が異なってくることもあり、リーダー会というチームを作るにあたり、仲間から考えさせられました。

4年間を振り返ると、本当に様々な思い出が蘇ってきます。そして、子どもたちと全力で遊び、リーダーたちとくだらないことをして笑いあった日々が、今では私のパワーに変わっています。これからは小学校の教員として沢山の人の々と関わります。結果だけにこだわらず、自分らしく様々なことに挑戦していきたいです。これからも目の前の子どもたちや人々のことを1番に考えて行動していきたいと思えます。4年間本当にありがとうございました。

盛岡大学4年 安久津 里彩 (あさりリーダー)



こんにちは！チョップです！無事卒業できることに浮かれていた私も、先に盛岡を立つリーダーを見送ったり、「これで会えるのは最後かもね」といった会話からようやく卒業するんだという実感が湧いてきました。

盛岡YMCAは、人と人との関わりが非常に濃く、子どもから学生、それからワイズの方々まで普段の学校生活では関わることの無い人との出会いが溢れていました。その中にはその日限りでもう会うことがない人、いつも顔を合わせる人、また定期的に会える人、どんな出会いでもどんな関わりでも広がるのが嬉しくて、そしてリーダー名を覚えて遊んでくれる子どもたちや話さずに仲が深まっていく関係が、自分の居場所のように感じました。先日、お世話になった学童で嬉しい出来事がありました。「チョップちょっと来て！」と子どもたちに手を引かれて学童に入ると皆揃って出迎え、卒業を祝ってくれたのです。唐突な送別会に驚きましたが、それまでに子どもたちと関わりを続けてきて、私のために会を開いていただけに心から感謝し涙をこらえました。私と子ども、私とリーダー、どんな関係でも目に見えないような形には残りませんが、これまでの歳月が遊びが会話が、その人に何らかの影響を与えたり、ふと思いついてブツと笑ったりと思いついて心の中で残ってくれることを願っています。私は盛岡YMCAから色んなものをもらいました。思い出や笑顔、失敗、そして関係性、それらが今の自分を作り上げてくれたと思うのです。これからは保育士として幼い子どもたちの心に残るような関係を築いていけたらと思います。皆様、本当に本当にお世話になりました！！

岩手県立大学4年 川口 奈恵 (チョップリーダー)



3月になり、卒業を意識することが多くなってきました。少し寂しい気持ちとともに今まで、YMCAでのたくさんの経験を振り返っていました。楽しかったこと、悔しかったこと、辛かったこと本当にたくさんのことを経験させていただきました。そして、その経験はこれから、社会に出ていく私を支えてくれるものです。

様々なことを振り返っていると、「あの時は、こういうことを感じた。」「あの時は、こんなことを学んだ。」とたくさんの場が思い出されます。そして、その思い出された場面には、必ず私「誰か」がいました。その「誰か」は、リーダーであったり、スタッフであったり、子どもの時もあれば、ワイズメンズクラブの方であったり様々です。私が独りで、何か自分の中に新しいものを生むということは、私の大学生活では少なかったように感じます。もちろん、何かしらの本や映像をみて学ぶことはあったので、そういうこともゼロではありませんでした。しかし、圧倒的に周りの人との関わりの中で、学ぶこと、感じることのほうが多かったです。「人は人と会うことで成長する。」このことを改めて、強く感じています。

また、そのようなことを改めて感じると同時に、感謝の気持ちも、私の中に溢れてきました。私が盛岡YMCAでたくさんのことを学んだり、感じたりすることができたのは、私に対して、真正面から向き合ってくれる人たちがいたからです。また、YMCAを信用して、お父さんを預けてくれる保護者の方や、盛岡YMCAのことを好きになって参加してくれる子どもたちがいなければ、今の私はいなかったと思います。

まだまだ、未熟者で不甲斐ない私ですが、何事にも誠実に直向きに取り組んでいきたいと思っています。盛岡YMCAに、私に関わってくれた方々に本当に感謝しています。最後にありきたりな言葉になりますが、4年間本当にありがとうございました。

盛岡大学4年 東海林 俊一 (ますおリーダー)



岩手県立大学社会福祉学部4年のだっちゃんこと川村美沙樹です！盛岡YMCAでは2年間活動しました。大学編入をきっかけに3年生から入ったのですが、盛岡YMCAのリーダーたちは学年の壁を感じさせないくらい歓迎してくれて、たくさんの仲間と本当に濃い2年間を過ごすことができました。

この2年間を振り返ると、子どもと関わる時間と同じくらいに自分と向き合う時間が多かったように感じます。入る前は、ボランティアと聞くことで単発の取り組みという印象がありましたが、YMCAでは1つ1つどの活動も準備から振り返りの時間までの過程を大切にされていて、その中でたくさんの学びがありました。毎回、限られた時間の中で子どもたち一人ひとりの良いところを引き出しながらどうやってグループをまとめようと思いましたが、リーダートレーニングや他のリーダーからアドバイスをもらい、冷静に状況判断をする大切さや子どもたちもリーダーも楽しめる環境づくりには密なコミュニケーションが大切だと学びました。プログラムづくりで他のリーダーと意見が合わずに衝突したことも、活動以外でもリーダーやスタッフとご飯を食べたり遊んだりしたこと、悩んで泣いて泣いて…と忙しい毎日でしたが、今となっては全ていい思い出です。唯一後悔しているのは、2年間と言いつつも今年あまり活動できなかった今の1年生とはほとんど一緒に活動できなかったことです。来春からも引き続き、盛岡にいるので時間があればまた活動に参加できればと思っています。

最後になりますが、いつも支えてくれたリーダーたち、スタッフの皆さん、ワイズの方々、今まで本当にありがとうございました。この2年間盛岡YMCAで学んだこと、たくさんの思い出は一生の宝物です。YMCAで得たことをいつまでも忘れずに来春からの社会人生活でも活かしていきたいと思えます。

岩手県立大学4年 川村 美沙樹 (だっちゃんリーダー)



暖かく穏やかな日が増え、寒さに凍える冬もいよいよ終わりを告げる時期になりました。寒さが苦手な私でお世話になっていた私も、最近外に出るのが少しずつ楽しくなってきました。盛岡YMCAとの出会いも春の陽気が抜けきらない時期だったと思えます。

私の盛岡YMCAでの活動は、ある日のリーダーサッカーから始まりました。初めて出会う人たちがばかりのはずなのに、ずっと昔に顔を合わせたかのような雰囲気を持つスタッフの方々やリーダーたちに温かく迎えてもらったことを昨日のこのように覚えています。あの日から今日まで、貴重な時間を個性豊かなメンバーや子どもたちと共に過ごしました。どれも二度と味わうことの出来ない大切な思い出です。また、ここでの経験は私自身が将来へ一歩踏み出すための大きなきっかけにもなりました。

高校生の頃からずっと教員志望だった私にとって、短大入学は目標到達への大きな遠回りだと感じていました。入学と同時に持ち続けていた夢を諦めて別の道を模索しようと考えたことも一度や二度ではありません。しかし、盛岡YMCAで野外活動、サッカースクール、その他の活動へ足を運び、たくさんの子と関わりながら活動していくなかで得られた大きな充実感が私の原点を見つめ直させてくれました。もちろん、子どもたちとコミュニケーションをとることは難しく、一筋縄ではいかないことも何度もありましたが、そこでの経験のほとんどが自分を成長させるエネルギーに変わってくれたと信じています。

スタッフの方々、Y'sメンズクラブの皆様、その他地域の方々にはたくさんお力添えいただきました。また、一緒に泣いて、悩んで、それでもたくさん笑って楽しく過ごして来た仲間たちには感謝してもきれません。4月からは、自分の夢を追いかけて、頑張る皆さんを遠くから応援しています。2年という短い間でしたが、本当にお世話になりました。

岩手県立大学短期大学部2年 峯田 盛史 (マッチリーダー)



こんにちは！毎度おなじみのゴリナです。「インドでゴリナも考えた」をはじめ、これまでの記事を読んでくださりありがとうございました！いよいよ卒業すると思うと、これまでのリーダーとして4年半、たくさんの出来事が蘇ってきます。嬉しかったこと、楽しかったこと、悲しかったこと、イライラしたこと、悩んだこと、嫉妬したこと、葛藤したことなど、一言では言い表せない感情が4年半、溢れていたなと感じます。それは、まさにYMCAだからこそ感じることでできたことだったのではないかと思います。常に自分の周りに人がいる。常に誰かがそばにいる。それは楽しく嬉しい時もあれば、イライラしたり、厄介に感じる時もあります。YMCAではそうしたことが日々当たり前のように繰り返されています。子どもたちはもちろん、リーダー、スタッフ、ワイズの方々や接する中で、たくさんの自分と向き合ってくれてはなりません。

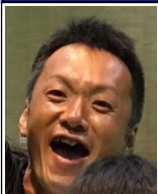
しかしそれは、様々な感情を胸に抱きながらも、活動に参加していく中で、新しい自分、嫌な自分、好きな自分、理想の自分、などたくさんの自分に出会えたような気がします。こうして心から自分と向き合ってくれた相手がいればこそどつくづく思います。常に自分の周りに誰かがいてくれたからこそ感じることでできたことだと思います。これまで私を見守ってくれた方々、そして無邪気に一緒に遊んだ子どもたち、喧嘩をしながらもなんだかんだ毎日のように遊んでいたリーダーたち、たくさんの人に私は感謝をしています。

来年度からは盛岡YMCAのスタッフとして働かせていただくことになりました。スタッフになってからも、周りの方々への感謝を忘れず、また、様々な感情を抱きながら日々を過ごしていきたいと思っています。これからもよろしくお願ひします。

岩手大学4年 武田 悠 (ゴリナリーダー)



# ☆フットサル大会開催☆



「やったあ!」「ナイスシュート!」子どもたちの様々な歓喜の聲が滝沢市勤労者体育センターの外まで響いています。

3月5日(日)、今年で6回目となる「盛岡YMCAフットサル大会」が滝沢勤労者体育センターで行われました。盛岡YMCAのサッカースクールはこの時期、足場の良くない雪上で練習や試合を行なっており、上手にボールコントロールする事は皆無に等しい状況なのですが、そこはYMCAのサッカースクールの子どもたち。雪でボールコントロールがうまくいかなくても声掛けは威勢

がとっても良いんです。その威勢の良さをそのままに、自由自在にボールをコントロールできる場所でのサッカーをする子ども達はキラキラした汗を飛ばし、キラキラした目をしていました。

低学年はとにかくボールをよく追いかける、高学年はパスの精度や動き出しまで考えながらサッカーをしている子どもが多くみられ、みんな本当にサッカーが好きなんだなあと感じました。もう一つ、盛岡YMCAのフットサル大会の特徴として大きく挙げられるのが、リーダー達です。リーダー達はただの応援団・コーチではありません。試合には出られないものの、「心」と「魂」は子どもたちと一緒にコート内にいました。試合が始まる前からチームを盛り上げ、試合中はざーっと仲間を鼓

舞し、点数が入ると子どもたちに駆け寄り一緒に喜びを爆発させる。そんな熱い、そして楽しいリーダーが仲間なら子ども達も盛り上がるのは当たり前です。そんなバカになれるリーダーが多く存在するのが盛岡YMCAの特徴なんだと改めて感じた大会でした。

お昼過ぎに閉会式が終わり、子ども達が解散する頃、すれ違うようにガタイの大きい男たちがぞろぞろと体育館に集結し始め、なにやら異様な雰囲気・・・。そうです!フットサル大会の後は「第6回盛岡YMCAベストキッズOB戦」が行われたのです!1年に1回、ベストキッズでサッカーをしていたOB達が一同に集まり、楽しく、そして、本気でサッカーをする特別なプログラム。現ベストキッズの子ども達は目を輝かせながら先輩たちのテクニックの応酬に魅入ってました。OB戦は年齢問わず、大好きなサッカーを通して、そしてYMCAの仲間として全員で過ごせるとても大切な時間です。その空間にいます、みんなサッカーが大好きなんだ。そして、YMCAが大好きなんだと感じることができるんです。来年もまた両大会は行われます。子ども達も、OBも楽しみにしているこの大会を私たちはざーっと大切にしていこうと改めて思いました。

YMCAサッカー大会担当スタッフ 東森 聡 (たもりリーダー)



卒業したつづ貝リーダーも集まり盛岡YMCAサッカー大会☆



YMCAサッカーの未来を担うのは俺達だアアア!!!



保護者の皆さんも参加して下さいました!

メンバーOBたちも年に一度のこの大会を楽しみにしてました!

## 盛岡YMCA宮古ボランティアセンター 3月報告書

### ☆9か月間の活動を終えたインターン生よりメッセージ



インターンをさせていただいていたチョップです!今回は9ヶ月という長い期間で、主に宮古市にて「宮古を愛する青少年の育成」を目的に活動してきました。宮古市の子どもを対象とした野外活動を始め、台風10号の災害支援、被災地の視察やシンポジウム・プロジェクト等、様々な活動に参加させていただき、沢山の色々な仕事に触れることができました。長いようで短かったインターンですが9ヶ月間を通して、被災地宮古のために自分にできることはなにか考えてきました。悩み、模索し活動が続けてきて、次第に宮古の子どもたちや地域の人々と会うことが楽しみになりました。私と同じように継続的な活動により、宮古の人々にとってYMCAが活動が楽しみや居場所になってくれればと思うようになりました。またそうなるためにも私ができることとしては活動を続けることなのではないかと考えました。

その他インターンで与えられた役割や仕事では、担当者と連絡を取り、責任を持って仕事を行うことの大切さを、失敗を繰り返しながら経験を通して学ぶことができました。

私たちインターン生を受け入れていただき、沢山の経験の場を与えてくださった濱塚さんを始め、君塚さん、またお世話になった宮古市の方々、そして活動を共にしたリーダーの皆さんに心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

岩手県立大学4年 川口 奈恵 (チョップリーダー)



9ヶ月間ありがとうございました。入校式の日、期待よりも9ヶ月間活動をやりきれないかどうかの不安の方が大きいくとも緊張していたことがこの間のようです。実際に活動が始まると、盛岡YMCAの人たちは出会ったことがないくらい面白い人で、毎回毎回の活動がとても楽しかったです。ピーちゃんという素敵な名前もつけていただき、子供たちやみんなに名前を呼んでもらえるのが本当に嬉しかったです。気がつくとい自分自身本当に心から楽しんで活動をしていました。9ヶ月なんてあっという間に過ぎていってしまいました。地元のために何かしたいと思って参加したインターン活動でしたが、でも実

際に活動してみると学ぶことの方が多く、地元のために自分が何ができただかと考えると答えはわかりません。でも宮古の子供たちやボランティアで出会った人たちと一緒に楽しい時間を過ごし、たくさん笑い合えたことはインターンの大きな成果だったと感じます。

何かに挑戦することが苦手だった私にとってインターンに応募したことは大きな決断でした。でもこの活動に参加した時間は、私の人生の中での大きな一部です。活動を通じて多くの人に会えたこと、ここでしかできない体験ができたこと、盛岡YMCAの皆さんには感謝しています。本当にありがとうございました。

岩手大学3年 大藤 百華 (ピーちゃん)

### ☆第一回宮古サッカーお泊まり会&宮古ファミリーサッカーフェスティバル



3月19日(日)~20日(月)の2日間、15名の子どもたちと12人のリーダー、スタッフで、陸中海岸青少年の家での第一回宮古サッカーお泊まり会を行いました。普段1時間の宮古サッカースクールのところ、午前2時間、午後2時間の練習で長い時間、仲間と楽しくサッカーをしました。

お泊まりならではの風呂や、一緒に食べるごはん、ナイトプログラムなど、サッカー以外の時間も大はしゃぎでした。

2日目は、お父さん、お母さんも集まりファミリーサッカーフェスティバルが開催されました。今まで練習してきた成果をお父さん、お母さんに観てもらえるということで、YMCAのユニフォームを着た選手たちは、熱い戦いを繰り広げていました。



盛岡YMCAスタッフ 向平 悟 (さとちゃんリーダー)

## ☆リーダー紹介コーナー☆



こんにちは!背は小さくても心が広いことで有名な ちょび です!またの名を岩手県立大学2年生の早坂知美といいます!今回は私と同じ岩手県立大学2年生の隠れおもしろリーダー、タイヤリーダーについて紹介させていただきます☆

タイヤリーダーの本名は湯澤直希といいます。性別は男性ですが、知る人ぞ知る、白雪姫の名演技者でもあるそうです!!一度でいいから見てみたいですね!今度みんなでお願ひしていきましょう!きっとかわいい素敵な笑顔で応じてくれるはずですよ!(そうになったら私は小人役ですかね??)

そんなタイヤリーダーの名前は、車好きというところからきています。正しくはレース大好き人間です。好きすぎて深夜に徹夜で見てしまうこともあるんだとか・・・良い子はマネしちゃいけませんよ!!ちなみに彼はマニュアルの普通自動車運転免許を持っています!タイヤがタイヤを動かせるわけです。面白いです

ねー。私は運転ができないので、純粋にすごいと思います!

次にタイヤリーダーがどんな人なのかを話したいと思います!タイヤリーダーとはとにかく優しいです。初めてあった人も安心してください!困った時は助けてくれるし、困ってなくても助けてくれる、そんな人です!その上ノリがいいです。最初は無理とか嫌だとか言っているけど、結局いろいろと面白いことをやってくれます。白雪姫とか白雪姫とか白雪姫とか・・・。なので、YMCAの活動でタイヤリーダーを見つけた時は粘り強くいろいろと願ひしていきましょう!

さてさて、タイヤリーダーについて少しはわかっていただけましたでしょうか?あえて言いませんでしたが、彼にはすごく嫌いなものがあったりします!ぜひ、会ったときに聞いてみてください!最後まで読んでいただきありがとうございます!

タイヤリーダーの素敵な笑顔☆



# 4月の予定

- ★4月1日(土) ぶらいむ・たいむ開校
- ★4月4日(火) 火曜水泳教室1期開講
- ★4月8日(土) 本町スクール1期開講
- ★4月9日(日) 4月サンデースクール ~焼き印入り!オリジナルどら焼きを作ろう~
- ★4月10日(月) 土曜スクール1期開講 月曜水泳教室1期開講
- ★4月12日(水) 水曜水泳教室1期開講 盛南スクール1期開講
- ★4月13日(木) 向中野スクール1期開講 高松スクール1期開講
- ★4月14日(金) 篠木スクール1期開講 盛北スクール1期開講 金曜水泳教室1期開講
- ★4月18日(火) 火曜水泳教室休講
- ★4月23日(日) 4月アドベンチャー ~電車で行く花巻空港探検~ (場所:花巻空港)
- ★4月29日(土・祝) 本町スクール休講



# 君でいいんだよ ~JUST THE WAY "YOU" ARE 33~

## 『見つかる』?

「天体観測」という歌がある。日本の4人組のロックバンド、BUMP OF CHICKENの最大のヒット作で、2001年の3月にリリースされた。

見えないモノを見ようとして  
望遠鏡を覗き込んだ  
静寂を切り裂いて  
いくつもの声が生まれたよ  
明日が僕らを呼んだって  
返事もろくにしなかった  
「イマ」というほうき星  
君と二人で追いかけていた  
気が付けばいつだって  
ひたすら何かを探している  
幸せの定義とか哀しみの置き場とか  
生まれたら死ぬまでずっと探している  
さあ始めようか天体観測

「そんな夢みたいなこと言っていないで現実を受け入れなきゃ!!」「いつまで、甘い夢をみているんだ!」20代の頃は良く耳にした言葉だが、逆に最近口にするものが多くなってきた。人はいつのまにかほうき星を探すのをやめしてしまうのだろうか?

現実の世界に生きている僕たちは現実を無視することはできない。「探す気力がなくなった。」「見つからずに終わるのが怖い」「傷つきたくない」さまざまな思いはあるだろう。だからと言って、そこに埋没してしまうのは、あまりに寂しいことだ。

かの有名なアンパンマンはこうも語っている。僕たちは、生きる喜びをさがし続けていかなければならないんだ!! 昨日も今日も、明日も明後日も…。たとえ傷ついても…。

「あなたがたの中に、百匹の羊を持っていて、その一匹を見失ったとすれば、九十九匹を野原に残して、見失った一匹を見つげ出すまで捜し回らないだろうか。」

(新共同訳聖書 ルカによる福音書15章:4節)

盛岡YMCA総理事 濱塚有史

# ショッカーもフィリピンで考えた。①

2月22日(水)~28日(火)にかけて、ショッカーリーダーがフィリピンワークキャンプに参加しました。今月より、ショッカーリーダーからのレポートをお届けします☆



ワークキャンプ二日目。小一時間車に揺られワークを行うイロイロYMCAのキャンプサイトへ向かった。道中、見るもの全てが新鮮であった。秩序があるようでないような交通状況、普段見ない南国を感じさせる木、飼われているのか疑ってしまうような犬や牛。初めて見る現地の様子にとっても高揚し、これから向かうところはどんなところだろうという期待感も高まった。最初に私たちはキャンプサイトのそばにある小学校を訪れた。到着した目にした光景にとっても驚いた。校門に並ぶマーチングバンドの演奏とともに校庭を取り囲むように全校生徒が立っていて私たちを出迎えてくれていた。予想していなかった光景に戸惑いながらも、現地の子どもたちと挨拶を交わした。子ども達の目はとてもキラキラしていた。圧倒されるくらいリアルで、それにより衝撃を受けた。セレモニーも行いとてもあたたかく向かい入れていただいた。

当初はセレモニー後、ワークを行う予定だったが、雨

によりワークが中止となり子どもたちと交流する時間となった。日本の各YMCAがそれぞれ1つ歌やゲームを行い、盛岡からはロックマイソウルを紹介した。私は英語で歌の説明などをしたが、言いたいことを上手に伝えることがなかなかできず、もどかしさを感じた。しかし、いざ歌って見ると皆楽しそうな様子でとても嬉しかった。そのほかにも折り鶴や紙飛行機などを一緒に作り、楽しい時間を過ごした。

このワークキャンプ二日目は、ワークキャンプ全体を通じて最も長く子どもたちと関わることができた日だった。言葉は通じなくても楽しい時間を共有することができる。そのことを強く感じた。うまく伝わらなくても言葉以外の行動や気持ちで補っていく。そうすることで理解してもらうことができた。これまでサッカースクールやキャンプでも、うまく伝えることができずもどかしさを感じるがあった。しかしそれは自分の言葉の選択や、本気で伝えたいという気持ちが弱かったからだと思う。伝わる言葉に甘えてあまり考えずに喋る。そのせいで伝わらない。そのことにフィリピンの子も達と関わりながら気付かされた。伝えるためには言葉も重要だが、そのほかにも大切なことがある。言語は違えど関わり方は、変わらないということを感じさせられた1日だった。

岩手県立大学3年 伊藤 陸 (ショッカーリーダー)

# 表紙の写真から



3月5日(日)に行われたフットサル大会で一枚です☆ 各スクールの子どもたちは、メンバーOBたちとともにサッカーを楽しみ、盛り上がりま

# 盛岡Yリーダー 栃木へ...

私たちはとちぎYMCA企画のプロジェクトに誘われ、一泊二日で栃木に行ってきました。

1日目はとちぎYMCA主催、エッジョイドツジボール大会の見学と補助をしました。小学生が参加して、高学年の部と低学年の部に分かれてのリーグ戦を行う大会で、私たちはとちぎYのリーダーと一緒に選手を誘って来ました。近くで見ると、携わってきまされた。近くで見ると、携わってきまされた。近くで見ると、携わってきまされた。近くで見ると、携わってきまされた。

2日目はみらるプロジェクトに参加しました。宇都宮大学の中村教授からコミュニケーションと防災について、小原氏からUPの活動についてを講演していただきました。その後5つのグループに分かれ、今私たちにできることをテーマにディスカッションをしていきました。幅広い年齢での意見交換、震災についての自分の考え、震災が起こった日のごと、今自分が頑張っていることなどを共有しあいました。復興支援活動を行なっている人もいれば、復興支援には踏み出せていない人もいて、それぞれの立場から考えを述べて、それができた。私たちのグループは、心の復興が必要なこと、津波対策や防災が震災から活きていくことなどを話し合いました。

栃木での2日間で、震災から6年が経った今でも、震災について考える人や震災で支援が必要にしていることを実感し、また自分の震災への意識の薄れを感じることもできました。とちぎYのリーダーやプロジェクトで出会った仲間との出会い、今回感じたことを大切に、岩手でできることを自分なりにしていこうと思います。

盛岡大学短期大学部2年 渥美 百恵(ニョッキリーダー)

# 感謝

(2017年度3月24日現在) 五十音順・敬称略

## ●維持会費

秋本光里、浅沼慧、有我啓作、飯島隆輔、家村知佳、池田二郎、石崎真珠、石塚隆一、戸貝文、伊藤克己、伊藤寛太郎、伊藤寛一、伊藤愛美、伊藤みどり、井上浩太郎、井上修三、井上優子、今松桂子、上中優奈、魚住英昭、船井谷三代、江崎至、遠藤隆昌、遠藤昌樹、及川茂夫、及川忠人、大澤未生、大岡清二、小笠原真紀子、岡田聡治、尾形裕士郎、小川明浩、小川嘉文、小澤聡、レナード、柳切小、小畑孝子、重石桂司、小山直樹、角谷晋次、川坂保宏、神田穂穂、山崎弘生、角谷晋次、石塚英、石塚あき、工藤直子、工藤泰、熊谷圭祐、熊谷英希、熊谷直子、小林茂元、小井林一、昆野映子、今野聖一、今野健太、富澤彦、若藤恒夫、佐藤翔、清水治、清水治彦、菅原司、杉田弘美、高瀬悠、高橋奈菜、滝川俊彦、立花茂、田村治之、とちぎYMCA理事 長谷川 長岡和義、長岡正彦、中島敬哉、中原真澄、中村圭一、名古屋恒彦、南原良太、演劇秋二、演劇直樹、演劇人、演劇真美、演劇有史、演劇れい子、早坂春希、林原美、原真、東森聡、人見克弘、廣川厚子、廣川健太郎、廣川はるな、深澤多紀子、深澤秀男、藤野輝平、古澤伸、松尾聡子、増田隆、水野暢夫、光永尚生、宮崎幸雄、守口映次、大野鶴夫、森山日菜乃、森山幹大、山口貴伸、守下昌輝、森山日菜乃、森山幹大、山口貴

## ●寄附金

池田二郎、伊藤克己、伊藤寛一、伊藤みどり、今松桂子、鶴丹谷三千代、遠藤隆昌、遠藤昌樹、及川茂夫、大岡清二、岡田茂夫、角谷晋次、北田アユ子、熊谷圭祐、熊谷紗希、熊谷力貴、昆野香代子、佐藤翔、高瀬悠、早坂春希、花田隆、演劇秋二、演劇れい子、原真、人見克弘、光永尚生、ワイズメンクラブ東日本区

## ●東日本大震災被災地支援委員会 献品

3.11チャリティコンサート実行委員会、飯島隆輔、大阪YMCA、大阪YMCA A、幼園ホムレム、社会福祉法人イエス、友愛幼稚園、私立聖真小学校、馬場一郎、日本基督教団盛岡教会、ワイズメンクラブ西日本区

## ●熊本地震・Y.M.C.A.救援 復興基金

伊藤知佳、石崎真珠、伊藤克己、伊藤寛一、伊藤寛太郎、小畑孝子、北田アユ子、君塚彩熊、熊谷直子、熊谷力貴、昆野香代子、昆野瑞紗、清水弘一、若恵、名古屋恒彦、増田隆、熊谷直子、吉田航平、吉田美波

## ●熊本地震被災Y.M.C.A.支援基金

浅沼慧、浅沼美希、家村知佳、石崎真珠、伊藤真珠、伊藤愛美、井上修三、岩井和己、船井谷三千代、遠藤隆昌、大岡清二、小笠原真紀子、尾形裕一郎、小川明浩、小川嘉文、角谷晋次、菊地弘生、工藤泰、佐々木平貴、高橋亜也、滝川佐波子、立花茂、日本基督教団内丸教会、日本基督教団宮古教会、演劇真美、演劇有史、早坂春希、友愛乃華、盛岡YMCAリーダー1人会、もりおろワイズメンクラブ、四元尚志、吉田航太郎

## ●国際協力基金

浅沼慧、浅沼美希、阿部未来、家村知佳、石崎真珠、伊藤真珠、伊藤寛一、伊藤寛太郎、岩城恵、上中優奈、遠藤隆昌、遠藤真実、大崎寛太、小笠原真紀子、尾形裕一郎、小川明浩、小川嘉文、君塚彩熊、電柳忠彦、工藤悦子、熊谷直子、熊谷力貴、昆野香代子、若藤恒夫、鈴木美奈、中村圭一、布川雅樹、演劇秋二、演劇真美、演劇有史、演劇れい子、早坂春希、早坂保宏、森聡、フジクリン、岩手株式会社、松井美樹、守下昌輝、山崎謙